不定期刊行　　第628号　2017.12.02

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩

ジャマイカ・ブルーマウンテン登山　その1

昨年7月から愚息がＪＩＣＡ（青年海外協力隊）に派遣されてジャマイカで仕事をしている。ジャマイカに行くと聞いた瞬間から登ろうと決めていた。たまたま今年が5年に一度のリフレッシュ休暇にあたることもあり、妻と連れ立って11月のテスト期間を使って訪ねてきた。11月24日ジャマイカに向かう。直行便はないので、ダラスとマイアミの2か所で乗り継ぎ、現地時間の午後8時首都キングストンに到着。初対面のジャマイカは、熱帯とはいえ、11月の下旬でそれほど暑さは感じなかった。

現地滞在は入国日と出国日を除くと4日しかないので、25、26の両日を使っての登山となった。25日、午後1時45分に集合場所に行くためにＪＩＣＡのシニアヴォランティア（ＳＶ）のＩさんが迎えに来てくれた。登山口までのタクシーをチャーターするのに息子と二人だけでは割高になるので、僕が登りたいというのを聞いた息子がＪＩＣＡの仲間に呼びかけて、登山を募ってくれてあったのである。Ｉさんは神戸市役所を退職後、憧れの海外生活をしたいということで、ＳＶを志願し、息子同様昨年から滞在しているのだという。2時少し前に集合場所であるＭさんのアパートメントに到着すると同行者はほぼそろっていた。

今回の同行者は当初9名だったのだが、息子は僕が到着する直前に熱が出て下痢をしているということで急きょ断念（結果的に息子が残ったことで妻にとっては心強かったのでよかった）して8名となった。ＪＩＣＡの日本人Ｉさん、Ｍさん、Ｋさん、Ｍさんの職場に研修に来ているイタリア娘のＣ嬢、Ｍさんの友人であり生物学者のドイツ人Ｎさん、Ｎさんの知り合いのジャマイカ娘のＳ嬢、M嬢に小生。ＩさんとＭさんは山が好きということで、共にこれまでにブルーマウンテンに6回登ったという。そのＭさんがリーダー。多国籍登山隊で面白くなりそうだ。

早速、ワゴンタクシーに乗り込んだ。英語で会話が弾む中、哀しいかな、ちょっと置いてけぼりされた気分・・・。しかし、街を過ぎやがて道が山に入っていくと、興味深い景色が繰り広げられ、一気にテンションはアップ。しばらくすると坂が急になりドライバー曰く「No　ac」仕方がないので、窓を開ける。Ｉさんが「大西さん、まだ序の口、これからがすごいよ！」何がすごいって、道もすごいが運転も荒っぽさもすごい。山腹にはへばりつくようにポツリポツリと家がある。熱帯雨林の森にはところどころバナナが生えていて、ここがそういう場所であることを知らせてくれる。

ここでブルーマウンテンについて紹介しておこう。ブルーマウンテンと聞いて味のバランスのいいコーヒーを思い浮かべる人は多いはずだ。そう、ジャマイカは世界に名だたるコーヒーの一大名産地だ。ブルーマウンテンの山麓の高原でできるのがブルーマウンテンコーヒー。今回あちこちで飲んだが、その味

わいは格別だった。ブルーマウンテンとはジャマイカ島東部に45㎞にわたって走る脊梁山脈（ブルー＆ジョン・クロウ山脈）の最高峰の名前である。標高は2256メートルで、もちろんジャマイカ最高峰。様々な生物が自生していて、一帯はジャマイカの国立公園となっており、2014年には世界自然遺産にも認定された。ハイキングの道はしっかりと整備されている。しかし、そこまでのアプローチの道はなかなかのアドヴェンチャーであった。

ウイットフィールド小屋

タクシーに揺られることおよそ2時間、4時ちょっとすぎにこの日の宿泊場所であるウィットフィールド小屋（1315m）という山小屋に到着した。宿泊客は僕らのパーティだけ。コーヒーを50ジャマイカドル（ほぼ日本円の50円に相当）で飲ませてもらえるということなので、早速頼んでみた。美味い。ブルーマウンテンでブルーマウンテンを飲む、まさにほんまもんのブルーマウンテンである。小屋の回りにはコーヒー畑が広がっている。コーヒー豆の収穫は10月から12月というが、標高が高いからだろうか、この辺の豆はまだ赤く色づいているのはわずかでこれから実る時期を迎えるようだ。南向きの急斜面にはいたるところコーヒーの木が植えられ、この国を支える主要産業の一つであることを実感する。MさんとＩさん以外はいずれも初めての登山とのことである。果たして明日はどんな登山になるのだろうか･･･。小屋の回りを散歩しながら、メンバーと片言で会話をし、親睦を図る。暫くすると夕日が西のコーヒー山に沈んでいった。

夕食はチキンをメインにしたジャマイカ流の定食。ジャマイカでは主食は米で豆と一緒に炊いてある。シンプルだがいずれも美味。ビールが一本250ジャマイカドル。アルコール度数は低いが、割合においしい。食事後暫く話をし、9時過ぎにはベッドに入った。夜、時差ボケの関係なのか全く眠れず、1時間おきにトイレに起きた。夜半からかなり激しい雨が降っていたので嫌な予感がしたが、朝起きると雨はあがっていた。

各自持ってきたもので朝食を済ませ、5時に出発。まだ真っ暗である。恐らく左右にはコーヒー畑があるのであろう。ヘッドランプの灯りを頼りに車が通れそうな道を登っていく。C嬢が先頭を引っ張っていく。彼女は登山経験が少しはあるようだ。そこにジャマイカ娘が続いていく。なかなかのハイペースである。標高が1550mくらいまではコーヒー畑が開かれているようだった。

6時ごろになって少しずつ明るくなってはきたが、天気はすっきりせず、ポツリポツリと雨がふってきた。途中ポートランドギャップ（1675m）というところに東屋があった。このちょっと先にレンジャーがいるのだそうだ。雨はこの避難小屋に着くころに本降りになった。